

寺
ごよみ

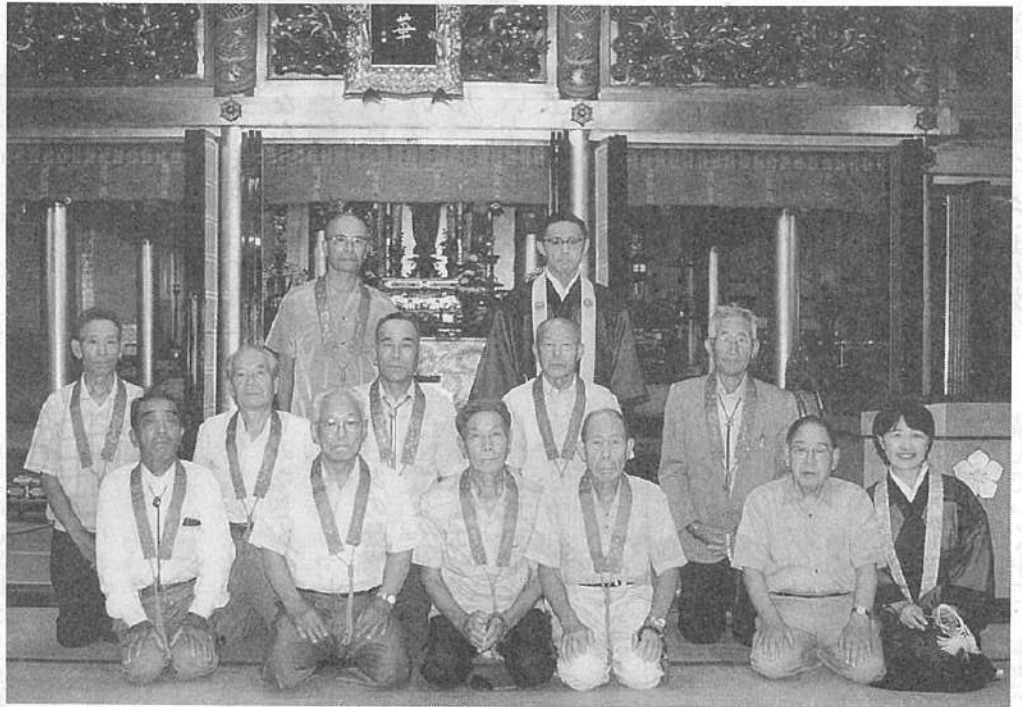
十
月

- 一日 板屋お講
一〇日 宗学院、願正寺様
ご参拝
一日 魚津報恩講
二日 富山報恩講
四日 清掃奉仕
五日 お道具磨き
六日 三田市お講
七日 米とぎ・聞法会
八日 お華束など準備
九日 報恩講
二〇日 報恩講
二二日 経田柳沢窪野田家
二六日 上下飯野高畠新浜
二八日 雪ん子泊公演
二九日 東狐・青木報恩講
三〇日 板屋報恩講
(門徒報恩講の「報恩講」
を省略する場合があります)

寺報 善 巧

発行
☎ 938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール zengyou@p2342.nsk.ne.jp

十月十九・二十日
報 恩 講
十一月四・五日
空 華 忌



新調した式章をつけて永代経祠堂会のお世話をする総代方

十七世紀の天才的数学者
ニュートンが、木の枝から
おちるリンゴをみて万有引
力の法則を発見した。中学
校で習った微分積分という
数理も彼が解明したという。
そんな大科学者が熱心な
キリスト教信者だったとい
うが、どうして神や天国の
存在を信じていた
のだろうか。彼は
いう。こんな法則
ではたらく宇宙を
創ったのが神であ
る。私は宇宙をつ
くった神の秩序の
中で科学研究して
いるのだと。
なるほどそうい
えば、現在でも西
洋のすぐれた科学
者のクリスチャンがいるが
同じ思いで科学されている
ことを聞いたことがある。
それを思うと、私共仏法
者もまた、仏さまのさとら
れた法に無縁縁起の法則の
中で人生生活をいとなんで
いるのである。如来の本願
大悲の中で日々の人生のい

お念仏の世界観

となみがあることを味わう
のである。
六連鳥の妙好人、お軽さ
んのうたに
鮎は瀬に住む 小鳥は森
に住む わたしや 六字
のうちに住む
このうたを最近とくに有
難く味わわれてならない。
この私はどこに住
んでいても、どんな
境遇の中に日ぐらし
していても、いつも
如来さまのお六字の
中に、本願のお慈悲
の中に住んでいるの
である。
わたしの人生生活
のいとなみはいつも
如来の智慧慈悲の法
の中にある。如来大
悲のお念仏の中に人生のす
べてのいとなみ、政治も経
済も科学も教育も文芸も労
働も、如来の本願の法の中
でのいとなみである。そこ
に念仏の世界観が存するの
であろう。

行信教教授

高田慈昭先生



空華忌講話

(平成十二年)

本願寺派勧学

梯實圓和上 (二)



この明教院和上のお師匠さまが、先ほど申しました陳善院僧樸師、その僧樸師のお師匠さまが日溪法霖師、その日溪法霖師のお師匠さまが桃溪若霖師という方です。若霖、法霖、僧樸、そして僧鎔というふうに続いていく学系なのでございませうけれども、そういう中で、それまで「自力・他力」と

いうことがどうもはっきりわからない。はっきりわからないというより、他宗・他派と混同してしまうわけなんです。ね。「自力・他力」ということは仏教ではどこでもいつてるとなでございませうけれども、浄土真宗でいつている、殊に親鸞聖人がいつている「自力・他力」ということがどういうことであるのか、ということがなかなかわかりにくい。そういうことを明らかにしていこうとした人たちが、先ほど言った若霖、法霖、僧樸、僧鎔という方々なんです。今日は少し「自力・他力」ということをお話しておこうかと思うのでございませう。

「自力・他力」という言葉は、言葉としては仏教の中

にずっと伝わってきた言葉でございまして、実はこれ浄土教だけじゃないでございませう。「自力・他力」という言葉を浄土門に、この浄土の教えの中に初めて導入されたのは曇鸞大師という方なんです。もう千四百五十年ほど前の方でございませうけれども、曇鸞大師という方、ご存じでしょう。「本師曇鸞梁天子、常向鸞処菩薩礼」と、先ほどもみなさん「お正信偈」であげていらつしやいました、あの曇鸞大師が、それまでもよく使われておった自力と他力という言葉が浄土教に用いてくるんです。そして浄土教に用いてきた時に今までの使い方を逆転

自力・他力

味での菩提心というものを自分の力でおこしていこうとする、それを自力の菩提心という。それに対して菩提心をおこすといひましてなかなか自分の力だけでは本當の菩提心がおこることはない。いろんな善知識(お師匠さま)のお力であるとか、あるいはいろんな仏や菩薩の加被力、お力をいただいて、それで菩提心をおこしていこうとする、そういうようなのを他力の菩提心といひます。しかし一番いいことは自力の菩提心がいいんだけれども、自分で菩提心がおこせない者は多くの方々の助力によって菩提心をおこすようにすればいい。こういうような

を人々におとりつぎをしていく。これが本當の說法です。これは自力の說法なんだけれどね。しかしなかなか自分の力だけでは說法するようないから、そこでいろいろな仏・菩薩の加被力をお願いして、それで說法させていただくというのを、他力の說法とこう呼ぶわけですね。こんなことが論の中に説かれていくわけですね。そういう中でやはり自力の方が優位であつて他力の方が劣位である。優劣をつけられ自力の方が優れておつて他力の方が劣つてゐる、こういうふうに考えられておつたんです。そういう自力他力という言葉が導き出されて、その意味を逆転させてね、実は他力の方がずっと優位であつて自力の方が劣位にあるんだ、と自力と他力の立場を逆転させた。これが曇鸞大師という方なんです。「往還回向由他力、正定之因唯信心」と他力という言葉がでてくるでしょ。あの

他力という言葉を初めて浄土教に導入されたのは曇鸞大師なんです。

その自力、他力ということを更に曇鸞大師の後を継いだ道綽禪師が継承して、『安樂集』の中には、自力よりも他力の方がずっと優れた意味をもっているんだ、こういうことをおっしゃっている。曇鸞大師や道綽禪師はそういうふうに「自力・他力」ということを、意味を逆転させるという形で導入してくるんですね。けれどもともとが自力の方が優位で他力の方が劣位におかれておったもんだから、ともすればこれは本家の用法に帰りそうになるんです。

でしようね。言葉っていうのは時代によって変わるんですよ。大変困ったもんでございましてね。そうしますと、自力と他力の意味が変わってきますと、阿弥陀さまの救済をあらわす役割を果たさなくなってきたというふうに善導大師はお考えになったんでしょうね。そして専ら阿弥陀仏の本願力という言葉を真つ向からうちだしていきます。実は他力ということは如来さまの本願力をあらわす言葉だったんですけれども、それを他力・自力という言葉を使わずに阿弥陀さまの本願力という言葉を真つ向からうちだして、「一切の善惡の凡夫、生を得るは阿弥陀仏の大願業力をもって増上縁となす」といういい方で善導大師はおっしゃるわけでございます。

それが日本に入ってきたとして、また再び法然聖人が「自力・他力」という言葉をお使いになるわけでございます。今度は善導大師のあの教えをもつて一度「自力・他力」という言葉をもつて表現しなごうとしたのが法然聖人なんです。その法然聖人の後を継ぎまして、他力ということは他力回向、本願力廻向という仏さまの働きをあらわすのだ。こういうふうにピシッと決めていくのが親鸞聖人なんです。ね。そして「自力を捨てて他力に帰する」ということを親鸞聖人ははっきりとあらわしていくんですね。みなさんは「自力を捨てて他力に帰する」ということはよく知っていらっしゃると思います。「もろもろの雑

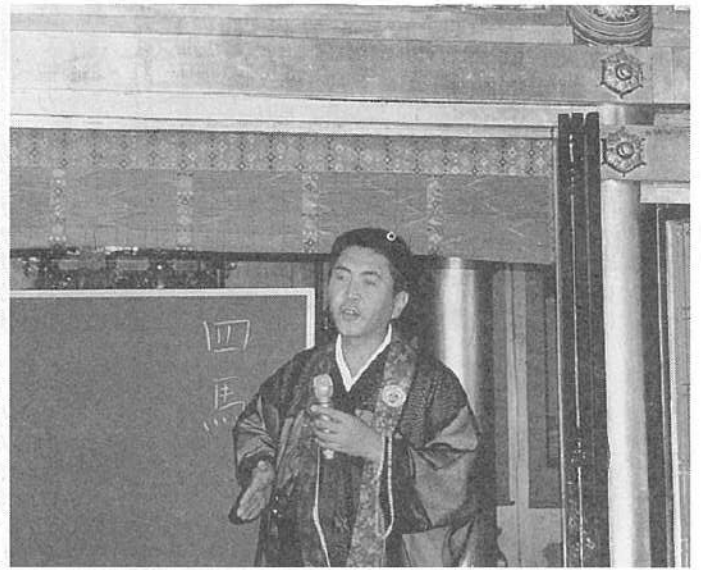


行雜修自力のころをふりすてて、一心に阿弥陀如来、われらが今度の一大事の後生、御たすけ候へとたのみまうして候ふ」というお願解文をあげていらつしやいますから、「自力を捨てて他力に帰する」ということはみなさん、そんな当た

んです。そこで法然聖人が言おうとされた自力、他力ということは、「自力を捨てて他力に帰することなんだ」といい、しかもその他力ということはね、単に「他の力」というものじゃないんだ。阿弥陀さまの利他の働き、他の一切の衆生を救済しようとする阿弥陀仏の救済の働きを阿弥陀さまの方からいいあらわす言葉が「利他力」を表わしているのが「他力」という言葉なんであつて、これは我々の物の考え方を逆転させるような意味をもっているんだ、というふうなことをご開山はこの『教行証文類』の中で明らかにしているわけですね。

そういうことを明教院和上などが非常に明確にしていけるわけなんですけれども、今夜はちよつとそのことを、自力、他力とはどういうことであるかということをお話をしておこうと思うのでございます。

(続く)



○永代経祠堂会
 今年の永代経も高務哲量先生をご講師にお迎えして無事勤まりました。これも清掃から最後の片付けに至るまで、総代世話方など、大勢の皆様のおかげです。



○盆 会
 青年盆会・子供盆踊り・盆会と幼児、青年層、そして七、八十代までが集い、例年通りの賑わいでしたし、久々に住職が帰院したことも喜び倍增でした。

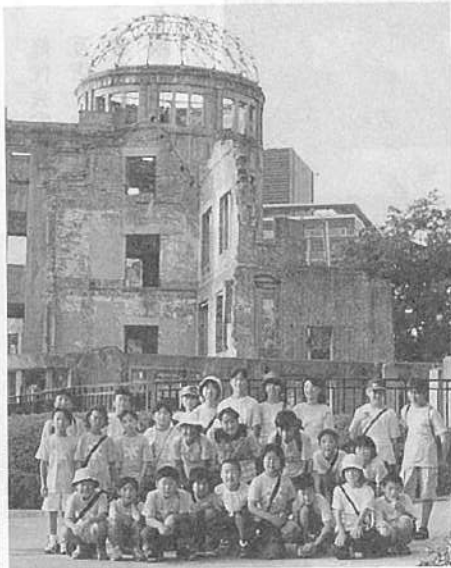
★雪ん子広島へ

広島加計町の正覚寺開法会「求道会」のお招きで廿日市「さくらぴあ」での公演旅行のご縁をいただきます

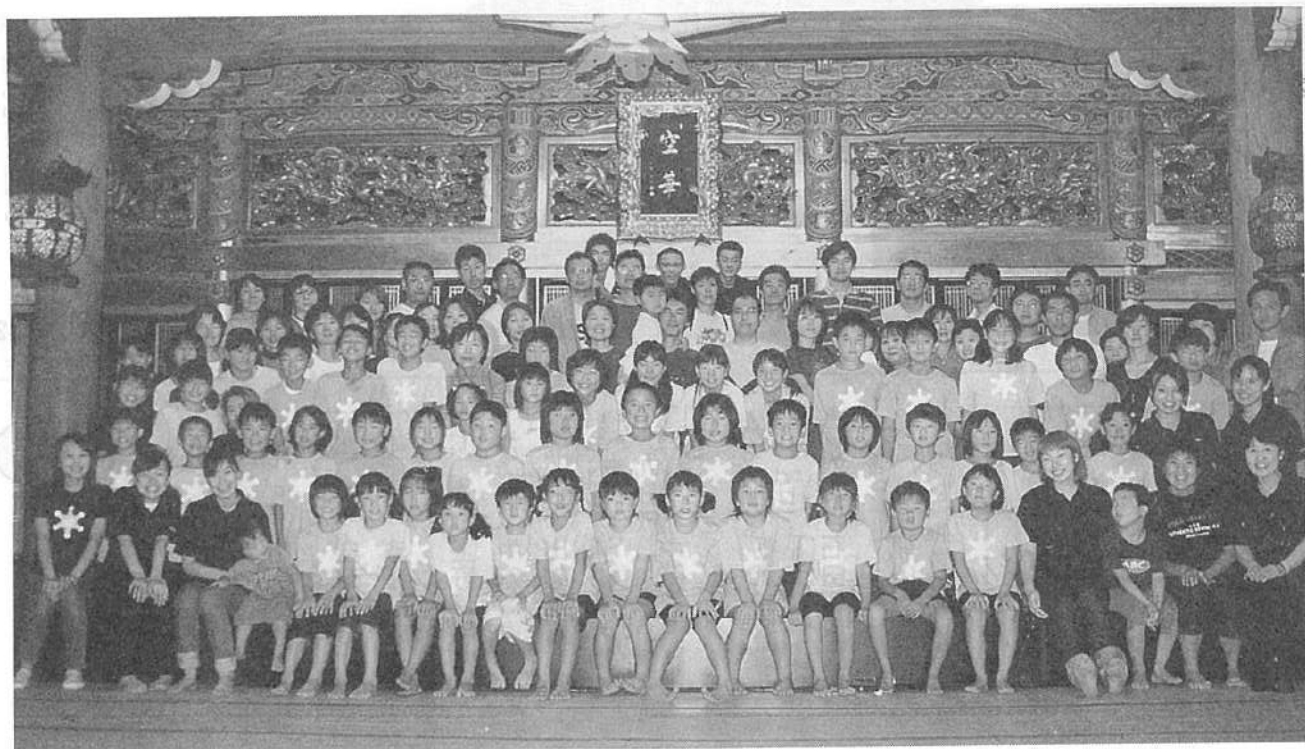
した。会長さんのお便りを紹介。

「念願であつた先生に会うことができ雪ん子の皆さまともおあい出来てもう何も

思い残すこともない心境でございます。とは申せ、生命を恵まれていたら五十周年？など夢みております。求道会会長 増村ミスノ



夏の公演関係者百人!!



(((((空華殿屋根緊急修繕!!)))))

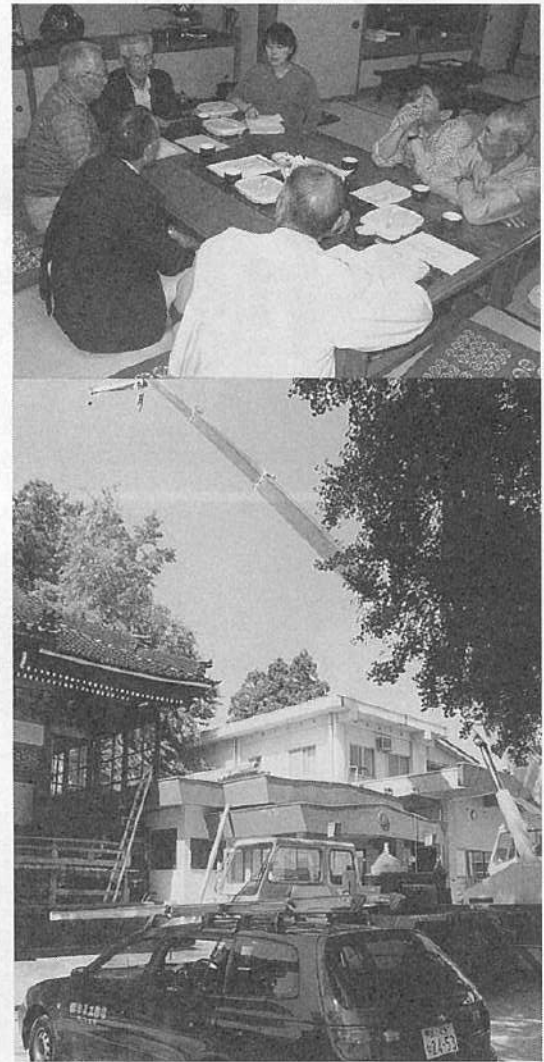


瓦をはぐると、屋根の周辺の痛みが激しい。勾配が低いので、大雨等の場合、雨が逆流したとのこと

今後このようなことのないように、勾配を三寸から四寸に上げる。

総代会の意向で松原瓦店と大敷建設に工事を依頼、瓦は全部新しいものに取りかえる

ちょうど梅雨も上がった永代経終了後工事に取り掛かり、お盆の行事までに完成



空華殿屋根の雨漏りから瓦の下の損傷が発覚しました。急きよ臨時総代会が開かれ、至急修繕に取り掛かることに決定。経過は写真(鬼原六義総代撮影)でお知らせします。
総代幹部会に報告
梅雨明け後工事に取り掛かる



〜〜〜
営繕部会開かる 9/22
岡田実、浦滝俊雄総代を中心に、責任役員・総務部も交えて、営繕部会が開かれました。
この度の空華殿屋根修繕にかかった費用は急なことであり、継職法要記念事業第三期工事に充てる為の財源から一時借り入れる。借り入れた金額を補足する方法は改めて総代会で審議する。
第三期工事に關しては、住職が帰る予定の来年度、総代会で再度協議する。
以上のことが話し合われました。

寺
こよみ

十一月

一日 愛本新お講

二日 空華忌打合せ

三日 米とき

四日 空華忌お初夜

五日 空華忌ご満座

七日 上野報恩講

一二日 中新報恩講

一六日 浦山新お講

一九日 中陣報恩講

二〇日 中陣報恩講

二二日 板沢報恩講

二六日 石田報恩講

二七日 浦山新報恩講

二八日 浦山新報恩講

篤信の人

みまかりて

秋深し

仲秋の月

皓々と

きまりたる

喜子

寺報百号にお祝いの言葉
各地から



北米ガーデナ仏教会
エイコ三浦さん

寺報をがーっと開けまして一息で読ませてもらい、ものすごく感動しています。いつも「善巧」ひらくたび、なんといいかやっぱりの手にかかっていることはさすがです。やること一流、かないっこないです。でも、さわやかな風がさーっと吹き抜け、上を見たらカリフォルニアの青い空、暑くもない寒くもない太陽がこの地を照らしてくれている。海にはヨットが浮かびみんなジョギングや散歩を楽しんでいる。…こんなお天気には皆さん逆立ちしてもありませんよ。

百号にご登場の梯和上、アメリカへいらっしゃる度にいつもお会いしています。ニューヨークでも一緒に過ごしていただき、楽しい旅でした。寺報「善巧」百号おめでとうございます。



三次市照林坊仏婦
藤井 睦代さん

寺報百号とか、本当に皆様代々のご努力が何われ感謝申しあげます。

おめでとうございます。遠くへ行けなくても行事予定を拝見しながら想像し頭の中で楽しんでおります。心ばかりでございますが、切手代にご使用下さいませ。編集に携わっております皆様方にもよろしくお伝え下さいませ。

盛岡市キャッツキヤー
畑中美耶子さん

第百号おめでとうございます。キャッツも夏の公演に向けキャンプを含めて、予定いっぱいというところですよ。まもなく二十年。定期公演も十九回目になります。



福岡市読売新聞
井上 憲司さん

寺報百号の発行おめでとうございます。また、お疲れ様でした。いつも宇奈月の里を思い浮かべながら、楽しく読ませてもらっています。



高槻市登美の里
後藤 慶子さん

寺報百号おめでとうござ

います。今日までのご苦勞大変だったことと存じます。「大空へチューリップの散華」の写真美しいですね。どのようにして撮られたのでしょうか。

梯和上の空華忌のご法話有難く拝読いたしました。空華派の意味がよくわかりました。これからもご法灯、皆様のご発展を念じております。

本

（本願寺新報九月一日号）
「ホツと報恩講」は梯和上、雪山玲子、溪宏道の各氏が執筆。味わい深い体験などが綴られ親しみやすい一冊。本願寺出版社。

ホツと報恩講



● 聖人を慕う報恩講
● ほんごころのつれづれ
● まんがで世界
● 本願寺の歴史

寺
こよみ

十二月

一日	下立愛本お講 仏教婦人会総会
三日	愛本新報恩講
四日	愛本新・中ノ口・赤田報恩講
六日	下村・大橋報恩講
七日	下村報恩講
十日	
十一日	
十三日	下立愛本報恩講
十四日	
一六日	浦山お講
一七日	内山、聞法会
一八日	音沢報恩講
二一日	
二九日	米とぎ
三〇日	もちつき
三一日	お寺の学校餅つき 除夜会

▲ 報恩講におまいりの方にプレゼントします。

空 華 忌

十一月四〜五日

ご法話 高田慈昭先生



善巧寺十一世住職明教院僧鎔のお祥月の法座。今年のご講師は行信教授教授高田慈昭先生です。昨年おこし頂いた梯實圓和上とは同級で、南米開教総長もお勤めになりました。どうぞ、このご縁をお見逃しなくお誘い合わせておまいりください。

十一月四日 午後七時 お初夜
十一月五日 午前十時 お日中
午後一時 ご満座

*五日は仏婦でお弁当の準備をします。

報 恩 講

十月十九、二十日

「ほんこさま」はご開山親鸞聖人のご法事、浄土真宗の門徒にとって大切なご法要です。どうぞ、お誘い合わせお参り下さい。

十月十九日 午後一時半 お逮夜
午後七時 お初夜
二十日 午前十時 お日中
午後一時半 ご満座

布教 発願寺若院 川崎順正師

ほんこさんまわり

十月十一日から

今年も親鸞聖人のおとしこし報恩講の時期になりました。十月十一日魚津から始まります。

お仏壇は念入りにお掃除をして、よいいな物がないように（おふだ、水・酒など）すっきりさせましょう。赤いろうそく、お香、お花、聖典、式章、お念珠の用意はできましたか。ご一緒に

お正信偈を読み、法話・ご文章拝読が終わるまで静かにおまいりしましょう。

*記念事業懇志未納の方はよろしく願います。

報恩講・空華忌準備

十月十四日 清掃

十五日 お道具磨き

十七日 米とぎ

十八日 お華束もみ他

十一日二日 米とぎ

三日 お華束もみ他

清掃奉仕お願い

十月十四日午前八時半

（雨天順延）

報恩講お待ち受けのお掃除です。どなたもご協力お願いします。

越冬清掃奉仕

十二月九日午前八時半

（雨の場合は十六日に）

今年最後の清掃奉仕です。

仏教婦人会総会

十二月一日午後一時

おつとめ 法話 総会 おたのしみ

*地区委員は参加人数をお知らせ下さい。

TEL 0765(65)0055

●会費未納の方は当日お納め下さい。一年分は五百円です。

合 掌

暑い暑いと言いつつも例年通り善巧寺は賑々しく繁盛の夏でした。

その暑い夏の盛り、奇しくも原爆記念日の翌日、広島へ行きました。ドームの見える宿に泊まり、雪ん子の子供たちも原爆の恐ろしさを少しは感じたようです。有難いご縁をあちこちでいただき、お招き下さった方々に心から感謝です。来年は高田派のご本山からお招きをいただいています。

お盆に久しぶりに顔を見せた住職でしたが、この度、後期の研究課程の試験に無事合格したと報告が入りました。これから半年はお正月休みもなく本山でお勤めの勉強等をさせていただくこととなります。

